

第 9 章 異常水質事故発生状況

I 概要

異常水質事故とは、公共用水域に汚水、廃液、油等が排出又は廃棄され、水質の著しい汚濁やそれらによる魚介類等への被害が発生することをいう。

異常水質事故の発生場所や原因等により関連部署は多岐にわたっており、本市では、平成6年に策定した「川崎市異常水質事故対策要領」に基づき対応している。

II 対象事故

環境局水質環境課で把握した油浮遊等の異常水質事故

III 発生状況

1 異常水質事故発生件数

(1) 種類別事故発生件数

平成28年度に発生した異常水質事故は43件であった。前年度の52件と比べ9件減少した。異常水質事故の種類別では、油浮遊が17件と最も多く、次いで着色水が15件、濁水が4件、魚死亡が1件、その他が6件であった。

(2) 水系別異常水質事故発生件数(表IX-1)

水系別では、東京湾で16件、多摩川水系で18件、鶴見川水系で9件の異常水質事故が発生した。

東京湾で発生した異常水質事故は、油浮遊が12件、着色水が2件、濁水が1件、その他が1件であった。

多摩川水系で発生した異常水質事故は、魚死亡が1件、油浮遊が4件、着色水が7件、濁水が3件、pH異常が1件、その他が2件であった。河川別では、三沢川で1件(油浮遊1件)、平瀬川で5件(油浮遊1件、着色水2件、濁水2件)、二ヶ領本川・用水で5件(魚死亡1件、油浮遊2件、pH異常1件、その他1件)、五反田川で7件(着色水5件、濁水1件、その他1件)であった。

鶴見川水系で発生した異常水質事故は、油浮遊が1件、着色水が6件、その他が2件であった。河川別では、矢上川で5件(着色水4件、その他1件)、麻生川で1件(その他1件)、片平川で2件(着色水2件)、江川で1件(油浮遊1件)であった。

表IX-1 水系別異常水質事故発生件数

水系	種類	魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	その他の水質異常	地下浸透	合計
東京湾	川崎港運河内		11	2	1		1		15
	川崎港運河外		1						1
	小計	0	12	2	1	0	1	0	16
多摩川	多摩川本川								0
	三沢川		1						1
	旧三沢川								0
	平瀬川		1	2	2				5
	二ヶ領本川・用水	1	2			1	1		5
	五反田川			5	1		1		7
	登戸雨水幹線								0
	山下川								0
	六ヶ村堀雨水幹線								0
	宮内雨水幹線								0
	大丸用水								0
	五ヶ村堀								0
	小計	1	4	7	3	1	2	0	18
鶴見川	鶴見川本川								0
	矢上川			4			1		5
	有馬川								0
	渋川								0
	麻生川						1		1
	早野川								0
	真福寺川								0
	片平川			2					2
	江川		1						1
	市外河川※								0
小計	0	1	6	0	0	2	0	9	
合計		1	17	15	4	1	5	0	43

(3) 原因別異常水質事故発生件数(表IX-2)

原因者が判明した異常水質事故は20件で、工場・事業場によるものが10件、建設工事によるものが1件、船舶によるものが4件、その他が5件であった。

工場・事業場に起因する10件の異常水質事故(油浮遊3件、着色水4件、濁水2件、pH異常1件)の原因は、施設の破損が2件、作業ミスが4件、施設の管理不備が4件であった。建設工事に起因する1件の異常水質事故(着色水1件)の工事内容は建築工事であった。船舶に起因する4件の異常水質事故(油浮遊4件)の原因は施設の破損が2件、作業ミスが1件、施設の管理不備が1件であった。また、原因不明の異常水質事故は23件で、魚死亡が1件、油浮遊が8件、着色水が10件、濁水が2件、その他が2件であった。

表IX-2 原因別異常水質事故発生件数

原因		種類							
		魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	地下浸透	その他の水質異常	合計
工場・事業場	施設の破損				1	1			2
	作業ミス		1	2	1				4
	施設の管理不備		2	2					4
	火災消火								0
	原因不明								0
	小計	0	3	4	2	1	0	0	10
建設工事	下水道工事								0
	河川改修・管理								0
	水道・ガス工事								0
	建築工事			1					1
	道路工事								0
	その他の工事								0
小計	0	0	1	0	0	0	0	1	
船舶	施設の破損		2						2
	作業ミス		1						1
	施設の管理不備		1						1
	原因不明								0
	小計	0	4	0	0	0	0	0	4
その他		0	2	0	0	0	0	3	5
原因不明		1	8	10	2	0	0	2	23
合計		1	17	15	4	1	0	5	43

2 異常水質事故発生状況の経年推移(平成6年度～平成28年度)

(1) 異常水質事故発生件数

平成6年度から平成28年度までの種類別異常水質事故発生件数を表IX-3に示す。

過去23年間の平均発生件数は38件/年であった。

表IX-3 種類別異常水質事故発生件数経年推移

種類	年度																							合計
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
魚死亡	3	3	4	12	1	0	3	3	1	1	0	0	2	2	0	4	5	4	4	3	3	0	1	59
油浮遊	13	11	13	24	15	11	18	11	14	20	11	21	20	19	21	14	10	14	19	25	17	23	17	381
着色水	3	5	6	8	3	4	9	1	5	6	7	5	27	12	18	38	26	8	21	16	14	18	15	275
濁水	1	2	0	0	3	4	6	5	4	4	1	5	4	7	8	14	4	1	2	2	5	8	4	94
pH異常	3	2	5	4	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	1	24
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
その他	1	1	2	2	1	1	1	0	1	4	1	0	0	1	2	3	1	7	2	3	4	2	5	45
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	50	44	52	43	880

(2) 水系別異常水質事故発生件数

平成6年度から平成28年度までの水系別異常水質事故発生件数は表IX-4に示す。

水系別発生件数は、海域では京浜運河(43件)、多摩川水系では平瀬川(217件)、鶴見川水系では矢上川(128件)が最も多かった。

表IX-4 水系別異常水質事故発生件数経年推移

水系	年度																							合計	
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
東京湾	川崎港運河外		1		4	1	1				3	1	2	3	4	3	2	1			2	1	3	1	33
	末広運河						1			1		2				1				1	1				7
	田辺運河	2	1	2	2				2	1	1				2	2	1			1	5	1	2	1	26
	大師運河			1			1		1	1	1	3	1	4						1	1		2	2	19
	京浜運河	2	2	2	3		4	2	1	4			3	1		2		1	1	1	3	4	3	4	43
	千鳥運河					1		2				2					1			1	1	2	1	5	18
	塩浜運河	1	3	1								1		1	1	1			4				1	1	15
	池上運河	1		1						1	2		2			1						1			9
	夜光運河		1																						1
	水江運河			1												1								1	3
	浅野運河				1				1	2	1			1			1				1			1	9
	桜掘運河					1				2					2				1						6
	南渡田運河					1								1	2										4
	白石運河											1	2					1				1			5
	川崎航路						1								1									1	3
境運河												1	1											2	
多摩運河																		1	1					2	
小計	6	8	8	10	3	8	5	5	12	10	8	13	12	12	11	6	2	8	9	11	11	11	16	205	
多摩川	多摩川本川				3	2			1	5	2			1	5	5	5	7	2	1	4	2	2	47	
	三沢川		1	1	1	3		2	1	1	1				2	2	4	1	1	1	2	2	1	27	
	旧三沢川		1							1			1								1	2		6	
	平瀬川	5	4	9	7	5	5	1	4	2	6	5	6	23	8	16	34	14	10	11	11	11	15	5	217
	二ヶ領本川・用水	6	6	2	8	3	2	5	5	1	2	4	4	3	3	3	1	3	3	2	2	3	5	5	81
	五反田川	1			2	1	1	2	2				2	2	1		1	1	1	4	2	2	4	7	36
	登戸雨水幹線	1			1	1						1													4
	山下川							2								1	1	1		1					6
	六ヶ村堀雨水幹線				1			2										1		1					5
	宮内雨水幹線			1				1			1							1							4
大丸用水				2			1	1					1											5	
五ヶ村堀							1																	1	
小計	13	12	13	25	15	8	17	14	9	13	10	13	30	19	27	48	27	17	21	22	22	26	18	439	
鶴見川	鶴見川本川				1	1	1	1					1		1		3		1					10	
	矢上川	2	4	4	6	4	1	5	2		10	2	8	6	6	10	11	7	5	9	8	11	5	128	
	有馬川			1	3			4		2		1		3		1	3			4	2		2	26	
	渋川	1		1	1			1		1								1						6	
	麻生川			1	3		1	1		1	1				2	3	2	4	2	3	2	2	1	1	30
	早野川			1			1					1			1										4
	真福寺川	1			1	1					1		1			1	1			1	2			10	
	片平川	1		1				1					1					1		1	2		1	2	11
	江川					1		1																1	3
市外河川*							1												1	4		1		7	
小計	5	4	9	15	7	4	15	2	4	12	3	6	11	10	11	19	17	11	18	17	11	15	9	235	
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	50	44	52	43	880	

* 鶴見川水系の市外河川：平成12年度（真光寺川）、平成23、24、26年度（黒須田川）

(3) 原因別水質事故発生件数

平成6年度から平成28年度までの原因別異常水質事故発生件数を表IX-5に示す。

原因不明の異常水質事故は過去23年間で平均24件/年であり、全体の61%となっている。

表IX-6 異常水質事故発生状況一覧

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
4月3日 ・ 4月3日	4月3日	東京湾	大師運河			○	①港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 海上保安庁 神奈川県警察署 ②なし ③なし	大師運河に2m×2mの油膜があるとの連絡を受け、関係機関が実地調査を行った。ガスの発生を確認したが検出がなかったため危険性はないとし、撤収した。原因特定には至らなかった。	不明		
4月7日 ・ 4月7日	4月7日	多摩川	平瀬川	高津区久地		○	①高津区役所道路公園センター ②なし ③なし	平瀬川で白濁水が流れているという連絡を受け、関係機関が現場を確認したが、現場に到着した時には白濁は見られず、原因特定には至らなかった。	不明		
4月8日 ・ 4月8日	4月8日 4月11日 5月2日 5月13日 5月16日 6月20日	鶴見川	矢上川	高津区子母 口		○	①環境局水質環境課 高津区役所道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課 上下水道局下水道水質課	矢上川で白濁水が流れているとの連絡を受け、関係機関と実地調査を行った。白濁の原因となっている事業者が判明し、配管の誤接により、排水が側溝へと流れてしまっていることがわかった。	判明	関係機関が指導を行った。	
4月14日 ・ 4月14日	4月14日	東京湾	京浜運河			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 海上保安庁 ②港湾局港湾管理課 海上保安庁 ③なし	京浜運河に10m×250mの油膜があるとの連絡を受け、関係機関が放水、航行により、拡散処置を行った。原因特定には至らなかった。	不明		
4月21日 ・ 4月21日	4月21日	東京湾	千鳥運河			○	①海上保安庁 ②海上保安庁 ③なし	千鳥運河に油膜があるとの連絡を受け、関係機関が放水により拡散処置を行った。原因特定には至らなかった。	不明		
4月26日 ・ 4月26日	4月26日	多摩川	二ヶ領用 水新川	多摩区 菅稲田堤		○	①環境局水質環境課 ②上下水道局生田浄水場 ③なし	二ヶ領用水新川の稲田取水場でコイが5匹死んでいた。関係機関が現場確認を行ったが、川の水に異常は見られず、他のコイは泳いでいた。簡易水質検査でも異常は見られず、原因特定には至らなかった。	不明		
5月6日 ・ 5月6日	5月6日	東京湾	浅野運河			○	①環境局水質環境課 ②なし ③なし	浅野運河に泡が流れているとの連絡を受け、関係機関が現地確認を行った。運河に泡は残っていたが、さらに流れてくる様子はなかった。原因特定には至らなかった。	不明		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
5月10日 ・ 5月10日	5月10日	東京湾	京浜運河		○		① 調 査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導	京浜運河で重油流出事故が発生したとの連絡を受け、関係機関が現地確認を行った。停泊中の船から、燃料補給中にホースから重油が漏れた。流出した油は10L程度で面積は20m×50m程度であった。消防艇による拡散処置を行った。	判明	関係機関が指導を行った。	
5月14日 ・ 5月14日	5月14日	多摩川	平瀬川	宮前区菅生	○		①環境局水質環境課 宮前区役所道路公園センター 消防局宮前消防署 神奈川県宮前警察署 ②消防局宮前消防署 ③なし	平瀬川で油が浮いており、ガソリン臭がするとの連絡を受け、関係機関が現地調査を行った。ガスを簡易分析したが、可燃性のものでなく、オイル吸着マットで油を回収した。原因の特定には至らなかった。	不明		
5月31日 ・ 5月31日	5月31日	東京湾	千鳥運河		○		①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 海上保安庁 ②港湾局港湾管理課 ③なし	トラックから油漏れが起こり、配管をつたって千鳥運河に漏れたとの連絡を受け、関係機関が調査を行った。海上に油はほとんど確認されず、排水口にオイル吸着マットを設置した。	判明	関係機関が指導を行った。	
6月3日 ・ 6月3日	6月3日 6月6日 6月10日 6月13日 6月14日 6月21日	多摩川	五反田川	麻生区細山		○	①環境局水質環境課 麻生区役所道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課 上下水道局北部下水道管理事務所	五反田川の水面に泡が流れているとの連絡を受け、関係機関が調査を行った。一般家庭の下水管が誤接され、生活排水が水路を通り、河川に流れ込んでいたことが確認された。	判明	関係機関が指導を行っているところである。	
6月8日 ・ 6月8日	6月8日	多摩川	五反田川	多摩区生田		○	①環境局水質環境課 多摩区役所道路公園センター ②なし ③なし	五反田川で赤茶色の水が流れているという連絡を受け、関係機関が現場を確認したが、現場に到着した時には着色水は見られず、原因特定には至らなかった。	不明		
6月9日 ・ 6月9日	6月9日	東京湾	大師運河		○		①環境局水質環境課 消防局 海上保安庁 ②なし ③なし	大師運河に油膜があるとの連絡を受け、関係機関が現場確認を行った。油膜の範囲は5m×2mで現場確認したときには既に拡散していたため、危険性はないと撤収した。原因特定には至らなかった。	不明		
6月16日 ・ 6月16日	6月16日 6月20日	多摩川	五反田川	多摩区生田		○	①環境局水質環境課 多摩区役所道路公園センター ②なし ③なし	五反田川でオレンジ色の水が流れているという連絡を受け、関係機関が現場を確認したが、現場に到着した時には着色水は見られなかった。後日、周辺の事業所調査も実施したが、原因特定には至らなかった。	不明		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
6月27日 ・ 6月27日	6月27日 6月28日	多摩川	三沢川	多摩区菅馬場		○		① 調査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導	三沢川で油が浮いているとの連絡を受け、関係機関が現場を確認した。引火性の油でないことを確認し、油をオイル吸着マットで回収した。油（軽油）はトラックに積まれていたポリタンクから漏れ、路上を洗浄したため、洗浄水が側溝に流れて河川に流れたことがわかった。	判明	関係機関が指導を行った。
7月1日 ・ 7月1日	7月1日	東京湾	千鳥運河			○		① 環境局水質環境課 消防局臨港消防署 神奈川県警察署 ② なし ③ 環境局水質環境課	事業所内の消火栓のパイプが破損し、泥水を含んだ水が漏れ、千鳥運河に流れたとの連絡が当該事業者からあった。防液堤周辺に漏れた泥水は当該事業者が回収し、破損した箇所を確認を行った。	判明	関係機関が指導を行った。
7月13日 ・ 7月13日	7月13日	雨水路	江川	高津区子母口		○		① 環境局水質環境課 環境局廃棄物指導課 高津区役所道路公園センター ② なし ③ 環境局水質環境課 環境局廃棄物指導課	高津区子母口にある雨水路に油が溜まっているとの連絡を受け、関係機関と実地調査を行った。調査の結果、事業所に置かれていたドラム缶からエンジンオイルが漏れていることが判明した。事業者が雨水路の清掃を行った。	判明	関係機関が指導を行った。
7月19日 ・ 7月19日	7月19日	東京湾	水江運河			○		① 環境局水質環境課 消防局 海上保安庁 ② 消防局 海上保安庁 ③ なし	水江運河にペンキのような白い膜が点々としているとの連絡を受け、関係機関が実地調査を行ったが、原因特定には至らなかった。関係機関が拡散処置を行った。	不明	
8月7日 ・ 8月7日	8月7日	東京湾	東扇島沖			○		① 環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 海上保安庁 ② 港湾局港湾管理課 海上保安庁 ③ 不明	東扇島沖でタンカー同士の衝突があり、約70Lの軽油が流出し、3kmにわたり浮遊しているとの連絡を受けた。関係機関が拡散処置を行った。	判明	関係機関が指導を行った。
9月12日 ・ 9月12日	9月12日	多摩川	五反田川	麻生区細山		○		① 環境局水質環境課 ② なし ③ なし	五反田川で白濁水が流れているのを当市職員が現地で発見した。発生源調査を行ったが、白濁水はすぐに止まり、原因特定には至らなかった。	不明	

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
9月16日 ・ 9月16日	9月16日	多摩川	五反田川	多摩区東三 田			○	①環境局水質環境課 多摩区役所道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課	五反田川に白濁水が流れているとの連絡を受け、関係機関が調査を行ったところ、事業者内で外壁塗装をしていた他の事業者が雨水系統に誤接続されていた仮設流し台に排水を流したため、白色の塗料が河川へ流れたことが判明した。その後、仮設流し台は下水系統に接続された。	判明	関係機関が指導を行った。
9月20日 ・ 9月20日	9月20日	東京湾	京浜運河				○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 ②港湾局港湾管理課 ③なし	京浜運河に30m×2mの油膜が確認されたとの連絡を受け、関係機関が現地確認を行ったが、原因の特定には至らなかった。関係機関が拡散処置を行った。	不明	
10月6日 ・ 10月6日	10月6日	多摩川	平瀬川	宮前区菅生			○	①環境局水質環境課 宮前区役所道路公園センター ②なし ③なし	平瀬川に白濁水が流れているとの連絡を受け、関係機関が現地に向かった。河川はうっすら濁っている程度で白濁水は既に流れていなかったため、原因特定には至らなかった。	不明	
10月16日 ・ 10月16日	10月16日	多摩川	二ヶ領本 川	多摩区登戸 ～ 高津区久地			○	①環境局水質環境課 環境局廃棄物指導課 消防局多摩消防署 高津区道路公園センター 多摩警察署 神奈川県治水事務所 ②多摩区役所道路公園センター ③なし	二ヶ領用水に白い粉状のもの（パウダービーズのようなもの）が浮遊しているとの連絡を受け、関係機関が現地に向かった。現地調査を行ったところ、多摩区登戸付近の二ヶ領用水の川表に白い粒状のものがまかっていたのを発見した。川表に残っていたものの回収を行った。原因の特定には至らなかった。	不明	
10月16日 ・ 10月16日	10月16日	多摩川	二ヶ領用 水円筒分 水 downstream	高津区溝ノ 口			○	①消防局高津消防署 ②消防局高津消防署 ③なし	二ヶ領用水に油が浮遊しているとの連絡を受け、関係機関が現地に向かった。大石橋付近で油を確認したため、オイルキャッチャーで回収した。原因の特定には至らなかった。	不明	
10月31日 ・ 10月31日	10月31日	東京湾	千鳥運河	川崎区千鳥 町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	事業者からスクラバー洗浄水を誤って千鳥運河に流してしまったとの連絡を受けた。スクラバー洗浄水は灰を含んでおり、焦げ茶色でpH7は程度、量は数十Lであった。拡散してしまったため、回収はできなかったが、ダイ特法及び水濁法の基準値内であったと試算された。	判明	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名		事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他	① 調 査	② 回収等対策			
10月7日 10月11日 10月17日 10月25日 10月28日 11月9日 11月14日 ・ 11月14日	11月15日 11月22日 1月6日	多摩川	五反田川	多摩区栗谷			○	①環境局水質環境課 多摩区役所道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課 多摩区役所道路公園センター	多摩区栗谷にある排水口から白濁水が頻繁に排出されているとの連絡を受け、関係機関が調査を行った。ある事業者の排水口であることがわかったため、排水を行う日に事業者と共に現場確認を行った。その結果、排水は多少白濁してはいるものの、連絡があった時の白濁水とは違うものであり、排水の水質分析の結果、排水基準を満たしていることがわかった。白濁水の原因については不明であり、調査を継続する。	不明		
11月22日 ・ 11月22日	11月22日	多摩川	五反田川	多摩区生田			○	①環境局水質環境課 多摩区役所道路公園センター ②なし ③なし	生田駅前の五反田川で濁水が流れているところを河川パトロール中の職員が発見した。周辺で発生源調査を行ったが、濁水が止まったため、原因の特定には至らなかった。	不明		
11月28日 ・ 11月28日	11月28日	多摩川	平瀬川	高津区久地			○	①環境局水質環境課 上下水道局下水道水質課 上下水道局中部下水道事務所 高津区役所道路公園センター ②京浜河川事務所 ③環境局水質環境課 上下水道局下水道水質課 川崎河川業協同組合	平瀬川にコンクリートのようなものが流れているとの連絡を受け、関係機関が調査を行った。調査の結果、原因者が判明し、作業の管理ミスにより濁水を流してしまったことがわかった。水路を清掃し、多摩川流入地点の前にオイルフェンスを設置した。	判明	関係機関が指導を行った。	
12月18日 ・ 12月18日	12月18日	東京湾	千鳥運河	川崎区千鳥町			○	①環境局水質環境課 海上保安庁 ②海上保安庁 ③環境局水質環境課	事業者から、台船が沈み、積まれていた発電機から油が漏れたとの連絡を受けた。オイルマットや吸着シートで油の回収を行った。	判明	関係機関が指導を行った。	
12月19日 ・ 12月19日	12月19日	鶴見川	矢上川	高津区子母口			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	天上川鷹巣橋付近の排水口から白濁水が流れているとの連絡があり、関係機関が現地調査を行った。調査の結果、原因者が判明し、作業の管理ミスにより白濁水を流してしまったことがわかった。水路に残った白濁水を回収した。	判明	関係機関が指導を行った。	
1月1日 ・ 1月4日	1月4日	東京湾	塩浜運河	川崎区夜光			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	事業者から熱媒体油（ビフェニルエタン）約20Lを漏れいさせてしまったとの連絡を受けた。オイルフェンスを展張し、油を回収した。	判明	関係機関が指導を行った。	
1月12日 ・ 1月12日	1月12日	東京湾	川崎航路	川崎区浮島			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	事業者からベンゼンを漏れいさせてしまったとの連絡を受けた。漏れい量は10L以上で0.1×30mの油膜が確認された。オイルフェンスを展張し、油を回収した。	判明	関係機関が指導を行った。	

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
1月26日 ・ 1月26日	1月26日 2月2日 2月13日	鶴見川	矢上川	高津区久末			○	①環境局水質環境課 環境局収集計画課 環境局宮前生活環境事務所 高津区役所道路公園センター ②高津区役所道路公園センター ③なし	高津区久末にある道路擁壁から、泡の混ざった水が流れ出て道路に広がっているとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、周辺住宅の浄化槽排水が流れ出ていることがわかった。浄化槽の性能を確認したところ、問題はなかった。道路擁壁の下に側溝を設け、排水が道路に広がらないようにした。排水の流入先である矢上川の水質については河川パトロールや常時監視により確認を行う。	判明	関係機関が措置を行った。
2月16日 ・ 2月16日	2月16日 2月17日	鶴見川	麻生川	麻生区上麻生			○	①環境局水質環境課 環境局収集計画課 上下水道局下水道管路課 上下水道局北部下水道事務所 麻生区役所道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課	麻生川の太谷戸橋付近から悪臭がするとの連絡を受け、現地調査を行った。調査の結果、雨水管内に白い汚れが見られた。周辺住宅の浄化槽の性能を確認したところ、適正に処理されていると推測された。2月28日に太谷戸橋付近の雨水管内の堆積物の清掃を行った。	判明	関係機関が措置を行った。
2月20日 ・ 2月20日	2月20日	多摩川	平瀬川	宮前区平			○	①環境局水質環境課 宮前区役所道路公園センター ②なし ③なし	平瀬川の八幡橋と川端橋の間にある水路から濁水が流れているとの連絡を受け、関係機関が現地調査を行った。現場に着いた時には濁水は見られず、発生源の特定には至らなかった。	不明	
2月22日 ・ 2月22日	2月22日	多摩川	二ヶ領用水	多摩区菅馬場			○	①環境局水質環境課 多摩区役所道路公園センター 多摩消防署 ②多摩消防署 ③なし	多摩区菅馬場の二ヶ領用水に5m×2mの油膜が浮いているとの連絡を受け、関係機関が現地調査を行ったが、発生源の特定には至らなかった。オイルキャッチャーで浮遊していた油を回収した。	不明	
3月17日 ・ 3月17日	3月17日	多摩川	二ヶ領用水	多摩区生田			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	本市浄水場から、工事現場に設置していたセメント製造施設から出る高pH水を二ヶ領用水に流してしまったとの連絡を受けた。セメント原水の取水ポンプを手動で稼働させ続けたことにより、pH10を超える水が100L程度、場内道路に溢れ出した。再発防止のため、ポンプを自動制御にし、溢れ出た際に水が流れ込む貯泥ピットを設置した。	判明	関係機関が指導を行った。
3月22日 ・ 3月22日	3月22日	東京湾	京浜運河	川崎区東扇島			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 川崎海上保安署 神奈川県警察署 ②なし ③環境局水質環境課	船舶への給油中に給油ホースが切れ、油が京浜運河に流出したとの連絡を受けた。流出した油の量は15L程度で32m×1mの範囲に広がっていた。自然拡散により拡散させた。	判明	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
3月23日 ・ 3月23日	3月23日	鶴見川	片平川	麻生区片平			○	①環境局水質環境課 麻生区役所道路公園センター ②麻生区役所道路公園センター ③なし	麻生区片平の道路側溝の中にあるくぼみ（雨水樹）に白濁水が溜まっているとの連絡を受けた。関係機関が現地調査を行ったが、発生源の特定には至らなかった。くぼみに溜まった白濁水は回収して処理した。	不明	
3月23日 ・ 3月23日	3月23日 3月24日	鶴見川	矢上川	宮前区野川			○	①環境局水質環境課 宮前区役所道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課	宮前区野川付近の工事現場から白濁水が流れ、矢上川が白濁しているとの連絡を受けた。関係機関が現地調査を行ったところ、工事事業者が矢上川へつながる雨水マンホールに白濁しているようにも見える高pHの排水を流していることがわかった。排水は中和処理し、下水道に流すよう指導した。	判明	関係機関が指導を行った。
3月24日 ・ 3月24日	3月24日	鶴見川	矢上川	宮前区野川			○	①環境局水質環境課 ②なし ③なし	矢上川上野川橋下流の右岸側水路から白濁水が流れているのを当市職員が発見した。周辺の調査を行ったが、白濁は止まり、発生源の特定には至らなかった。	不明	
3月27日 ・ 3月27日	3月27日	鶴見川	片平川	麻生区片平			○	①環境局水質環境課 麻生区役所道路公園センター ②なし ③なし	麻生区片平の片平川が白濁しているとの連絡を受け、関係機関が現地調査を行ったが、白濁は止まり、発生源の特定には至らなかった。	不明	
小 計					1	17	25			判明：20	
合 計					43					不明：23	